

がんセンター 便り



宮城県立がんセンター地域医療連携室

泌尿器科診療 の 紹介

泌尿器科診療科長

かわむら さだふみ
川村 貞文

当科は、がんセンター開設の平成5年に初代科長として桑原正明先生が赴任されてスタートしました。平成12年から栃木達夫先生、平成30年4月からは筆者が科長職を引き継いでいます。同じく4月に荒井陽一東北大学名誉教授を総長に迎え、筆者、安達尚宣、武田詩奈子両医師で日々の診療を行っています。

外来診療日は、3～4診体制で月、水、木、荒井総長には月、水の新患外来のお手伝いをしていただいています。火、金は手術日です。

入院病床数は20床で、外来患者数は一日平均50

～70名、年間手術件数は200件前後です。

当科は泌尿器科領域の全ての癌を対象として、非再発率、生存率の向上を主眼にQOLを重視した低侵襲治療を目指して診療にあたっています。

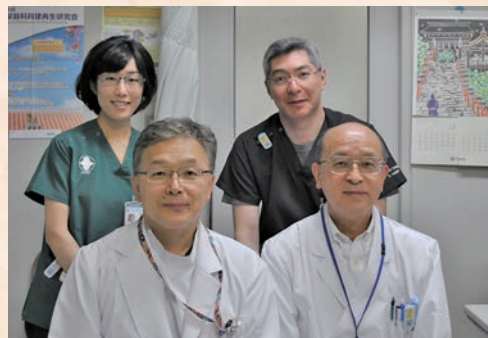
近年泌尿器科癌の診断、治療は急速に進歩しています。新規の治療薬が続々登場し、ロボット支援手術など新しい技術が次々に開発され、癌治療にはパラダイムシフトが起きています。今や治療には様々なオプションが存在しますが、個々の患者さんのニーズ、病期、悪性度、身体あるいは社会的要因などを総合的に考慮して慎重に選択していく必要があります。

前立腺癌は年々増加し、平成28年以降罹患数では男性悪性腫瘍の第1位となっています。当科では開設当初より前立腺癌の予防から診断、治療、フォローアップに至るまでを精力的に取り組んでいます。平成6年には名取市において宮城県初の前立腺癌住民検診を開始しており、25年に及ぶ豊富なデータの蓄積と実績があります。限局癌においては再発率の極めて低い確実な前立腺全摘術を提供しています。局所浸潤癌においては術前内分泌療法を併用するなどして拡大切除術を行うことで根治に努めています。更に現在低侵襲手術を実現するロボット支援手術導入の準備を進めているところです。トモセラピーはCT装置とIMRTとを合体させた装置で高精度の放射線治療が可能です。当センターは県内には2台しかないうちの1台を保有しており多数例の前立腺癌治療を行っています。

膀胱癌においては、症例によっては術前癌化学療法、放射線療法を併用して膀胱全摘術を行い生存率の向上に努めています。自然排尿型代用膀胱、回腸導管、尿管皮膚瘻など患者さんに合わせた尿路変更を行っています。

腎癌には様々な治療薬が存在します。小径腎癌は部分切除術の適応ですが、当科は腎血管の無阻血、腎切断面の無縫合処理を行うことによって一般に起こりやすい術後合併症を著しく低減させています。

今後も良質で先進的ながん医療を提供すべく努めていく所存ですのでよろしくお願いいたします。



向かって左から前列 川村診療科長 荒井総長
後列 たけだ しなこ あだち ひさのぶ
武田詩奈子 安達 尚宣

私たち がんセンターの 臨床工学技士です!

ME機器管理室 副室長 齋藤 美香

平成5年、がんセンターの開院と同時に、医療機器の保守点検や操作を主な業務とする「医療機器管理室」が設置され、当時新卒の技士が一人で細々と手術室やHCUでの業務を「手伝わせて頂いて」おりました。

それから25年。現在は「ME機器管理室」と部署名を変え、室長の医療局長のもと、4人の臨床工学技士が日々業務に励んでおります。

さて、そもそも臨床工学技士とは？聞きなれない職種かもしれませんが。臨床工学技士の歴史は(医療職の中では)比較的浅く、昭和62年に制定されました。『医師の指示のもと、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とするもの』が臨床工学技士とされていますが、現場で求められる業務は多岐にわたっています。

25年前とは比べ物にならないほど進化した現在の手術。腹腔鏡や胸腔鏡下での手術はもはやスタンダードで、周辺手術機器は増える一方です。手術室内の機器の準備やトラブルに対処するのかわれわれ臨床工学技士で、手術室での業務は増加の一途。近い将来には、最新の機器を用いた侵襲の低い手術がさらに増えることでしょう。

病棟での業務としては、人工呼吸器や呼吸療法機器の設置と使用中のチェック。造血幹細胞移植には欠かせない、末梢血幹細胞採取。難治性腹水症に対する、腹水濾過濃縮再静注法。急性腎不全や敗血症に対する血液浄化療法。手術や放射線治療を受けるペースメーカー患者さんのチェック。これらすべてを私たち臨床工学技士が行っています。

医療機器の保守点検業務では、毎日使用する輸液ポンプやシリンジポンプの点検を行い、他にもAED、病棟用モニタ、除細動器などの定期点検を行っています。昨年度の医療機器総点検件数は5000件を超えました。これらの機器の更新や廃棄にも携わっています。

今後も臨床工学技士が携わる業務は拡大していくと考えられます。チーム医療の一員として様々な部門との連携を強めながら知識と技術を磨き、医療機器を安心・安全に使用できるように努めていきたいと思えます。



向かって左から前列 齋藤副室長 佐々木室長
後列 保坂 今野 菅原



手術室にて麻酔器とモニターのチェック



病棟での末梢血幹細胞採取 右端が臨床工学技士



宮城県立がんセンター 創立25周年記念式典・祝賀会の開催報告

副院長 ^{まつうら} 松浦 ^{かずと} 一登

去る10月13日(土)に江陽グランドホテルにて宮城県立がんセンター創立25周年記念式典・祝賀会が開催されました。土曜日午後の開催でしたが、行政(宮城県、名取市など)や大学、各医師会、地域医療連携の会の皆様方に多数ご参加をいただきましたことを御礼申し上げます。当センター職員を合わせ約200名の参加を得ることが出来ました。緊張した雰囲気と共に華やかさもあり、当センターが25周年を迎えた事を皆様方にお披露目でき、大変嬉しく思います。講演会では総長から「がんセンターのミッションと将来展望」、研究所長から「研究所の現状と展望」と題して、皆様方にメッセージをお伝えしました。「がん治療のブロとして最新・最適な全人的がん医療を提供する」を旗印として掲げ、様々な部署の職員が工夫を凝らし、少しでも良い医療を患者さんに提供するべく、日々励んでいる事が伝わったのであれば幸いです。また、多くの研究成果や多額の研究費獲得、企業との産学連携が成されており、病院と研究所が当センターの両輪である事をお示しました。特別講演では国立がん研究センター理事長・総長の中釜齊先生に「日本におけるがんゲノム医療の実装と展望」をお話いただき、現実となったゲノム医療について非常にわかりやすく解説いただきました。素晴らしい科学の成果ですが、これから多くの人材とお金がかかることも事実であります。当院はがんゲノム医療連携病院に指定されたことから、がんゲノム医療センターを立ち上げました。今後、宮城県における「がんゲノム医療」の実現に向け、必須の役割を果たして参ります。既に、がんゲノム医療コーディネーターが配置され、来春には遺伝子パネル検査を希望される患者さんの受け入れが始められる予定です。

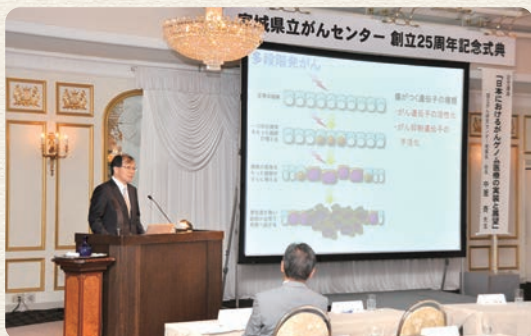
皆様の期待に応えるべく、低侵襲治療やがんの個別化治療、患者支援、地域連携を強化し、頼られる病院にして参ります。今後ともご指導・ご鞭撻いただきますよう何卒宜しく願い申し上げます。



島研究所長講演



荒井総長講演



記念講演 中釜 齊先生



祝賀会 山田院長 あいさつ



平成30年度 県民公開講座 「知ってトクする医学の知識」

● 日時:平成31年1月24日(木) 13:00~16:00

● 会場:名取市文化会館 小ホール

● 講師

- ・あいのもりクリニック 院長 千田 元 先生
- ・県立がんセンター緩和ケア内科 診療科長 中保 利通 医師
- ・県立精神医療センター精神科 五十嵐江美 医師

＊お申し込みは不要ですので、どうぞお気軽にご参加ください。



外来新患診療体制表

平成30年11月現在



(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
血液内科		●	●			●
腫瘍内科		●		●		
呼吸器内科		●	●	●	●	●
消化器内科		●	●	●	●	●
頭頸部内科				●		
緩和ケア内科				●		●
呼吸器外科				●		●
消化器外科			●	●		●
乳腺外科	●				●	
整形外科			●		●	●
形成外科			●			●
脳神経外科	●			●		●
泌尿器科	●			●	●	
婦人科	●		●		●	
頭頸部外科	●		●		●	
放射線治療科	●		●	●	●	

診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151 (代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)



交通案内

J 桜交 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
仙南交 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
自家用車 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

- 受付 午前8時30分～午後5時15分
- TEL (022) 381-5152 (直通)
- (022) 384-3151 (代) 内線123
- FAX (022) 381-1169 (地域医療連携室)

宮城県立がんセンター
 〒981-1293 宮城県名取市愛宕塩手字野田山47の1
 電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。